

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400350		
法人名	株式会社 三協宮城		
事業所名	グループホームあつたかいごおりやま ユニット名けやき棟		
所在地	仙台市太白区郡山5丁目8-24		
自己評価作成日	令和2年11月14日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2020年12月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく生活していただけるようなるべくご本人様の要望にお応えし施設内だけの生活にならないよう散歩支援やドライブなど外出支援を積極的に行っています。散歩中の景色の変化や三神峯公園の桜や光のページェントなどへお出かけし季節感を感じていただくことで生活に張りができるよう努めています。又夏祭りやハロウィンなどの行事の際には利用者様だけでなく職員も一緒に楽しめるよう企画し職員にやりがいをもって業務できるよう配慮している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは太子堂駅から徒歩で約15分、国道4号線から程近い住宅地の一角にあり、鉄筋2階建て2ユニットである。周辺には小学校、児童館、保育園、幼稚園などがあり、子ども達との交流が利用者の楽しみになっている。すぐ近くにある神社には日常的に散歩に出掛け、近隣住民と顔なじみの関係が築けている。例年は、地域の行事に積極的に参加し、ホームの行事には地域住民が参加するなど、地域交流を深めていた。理念は「自分らしく安心できる生活」「明るい笑顔のある生活」「地域と触れ合える生活を支援していきます」を掲げている。理念をケアに反映し実践できるようユニット毎に目標を定めている。また、目標達成に向けて職員一人ひとりも個人目標を立て、顔写真とともに廊下の壁に掲示し取り組んでいる。職員の意見を聞く仕組みを大切にし、毎月の全体会議で職員が講師を務める勉強会や、新任職員へのOJT(職場内教育)を実施し、外部研修への参加を促すなど職員の資質向上に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごこりやま ）「ユニット名 けやき棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念に沿って業務を行っている。又ミーティングにて共有している。	理念は職員全員の話し合いで作上げた。理念を基にユニット毎の目標及び職員一人ひとりの個人目標も立て、利用者が笑顔で安心して過ごせるようケアに努めている。ユニット目標は年度初めに、職員の目標は半年毎に見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の児童館や保育園との交流を行い、行事の際は参加して頂けるよう声掛けしている。	町内会に加入し、例年は、地域の行事に参加したり、事業所の夏祭りに近隣住民や児童館の子ども達などが参加し交流を深めていた。コロナ禍で事業所と地域との交流が希薄になりつつあったが、児童館の子ども達が手作りのクリスマス飾りを届けてくれたり、散歩時に近隣住民から声を掛けてもらうなどの繋がりが継続できている。	コロナ禍にあっても、理念の一つの「地域と触れ合える生活」を実践するために、あらたな地域との交流の仕方を職員の話し合いを基に企画することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症カフェを行い地域の方との交流を設けていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は2カ月に一回、書面にて事業所の取り組みを地域包括や地域の方々に周知を行っている。	隔月、町内会長、民生委員、保育園園長、児童館館長、地域包括職員、事業所職員が参加し開催していたが、コロナ禍で6月以降は書面による報告としている。送付する資料にはグラフや写真も取り入れ、分かりやすく工夫し送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括に事業所の取り組みや状況をお伝えしている。	地域包括職員が運営推進会議に参加しており、事業所の実情や課題を共有し、日常的に相談しやすい関係を築いている。市から新型コロナウイルス感染症に関する情報提供や研修案内があり、可能な限り参加している。例年は、認知症カフェを開催していたが現在はできていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を3か月に一回、職員全員で実施し理解と正しいケアを行えるよう取り組んでいる。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催している。身体拘束・虐待についての社内テストや言葉遣いに関するアンケート等を実施し、職員は自分のケアを振り返っている。外出要求が強い利用者には職員が同行しながら、近くを散歩するなどしている。防犯上、玄関の施錠は20時から7時まで、安全のためセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、身体拘束適正化、虐待についての防止策等を話しあっている。	身体拘束適正化委員会で高齢者虐待防止法等について学び、おこりうる事例について話し合い防止に努めている。不適切な言葉遣いやケアについては、都度、管理者や職員間で声を掛けあって取り組んでいる。全体会議では、新聞記事等を参考にして事例検討する機会も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、権利擁護に関する制度の理解と活用できるよう勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新しい入居があった際には契約内容を十分に説明を行い納得していただけるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話等で要望をお聞きしミーティングで周知を行っている。	例年は、夏祭りの後に家族会を開催し、意見や要望を聞く機会にしていたが、現在は、主に電話で聞いている。毎月発行している「あったかいごだより」で、利用者一人ひとりの様子を写真入りで家族に伝えている。家族に会いたいという利用者の要望に応え、窓越しで面会を行い、利用者の安心に繋がるよう努めている。今後はオンラインによる面会も検討中である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、職員の意見を聞きながら運営に反映している。	年2回の面談や毎月の全体会議などで職員から意見を聞いている。管理者は日常的に職員の様子についても把握し、都度声掛けし意見を聞くように取り組んでいる。資格取得や手当などについての意見・要望を法人本部に伝え運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の評価を行い代表者に報告しやりがいをもって働けるような給与水準、職場環境になるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会を設置し一人ひとりに必要な介護知識、技術を身につけてもらえるようアンケートなど使用し把握に努めている。内部研修を積極的に行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修などに参加した際には情報交換等を行っている。	グループホーム協議会に加入している。法人全体で開催する研修会に参加したり、他の事業所との交流も行っている。また、協力医療機関や協力歯科医、訪問看護師と連携し利用者の健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調で十分に情報収集を行い入居前にスタッフ間で話しあい、入居後不安にならないようなケアを行うよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様が不安に思っている事をお聞きしケアの方向性を十分にお伝えするよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを行う上で何か必要かを見極めよりよいサービスが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気になるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様、ご家族様の要望等をお聞きしその後スタッフ間で共有してより良い生活ができるよう方向性を話し合っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の友人など面会希望があった際にはご家族様と相談し面会の場を設けるなど対応している。	コロナ禍で、家族や友人との面会は、玄関先で窓越しで行うなど制限をしている。外出も以前のようにできず、現在は、近所を散歩し近隣の住民に挨拶するなど継続し支援している。2ヶ月毎に、感染予防を徹底し、理・美容の訪問がある。毎年、利用者が楽しみにしている光のページェントはドライブを兼ねて外出計画を立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士で作品作りを行う時間を設けるなど関わり合い、支えあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にご家族様から相談等があった際には必要に応じて支援していけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のご要望をお聞きし、本人の意向に沿えるよう努めている。	職員は、日々のケアの中で交わす利用者との会話や表情などから思いや意向を把握するように努めている。気づいたことは「業務日誌」に記録し情報共有している。ユニット会議で話し合い利用者の希望にそうように努め、家族にも報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にできる限り情報を収集し職員全体で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、入居後に職員全体で情報を共有し心身の状態に合わせてケアできるよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや定期的なカンファレンスにて課題等の情報の共有に努め介護計画に反映している。	毎月のユニット会議でカンファレンスを行い課題を検討している。介護計画は3ヶ月毎に、居室担当者のモニタリングを基に利用者、家族、訪問看護師や医師の意見も反映し見直している。また、体調の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様の状態、言動の変化を細かく記録に情報を共有しながらケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご要望等があった際には柔軟に対応できるよう業務日誌、申し送りなどで情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議や回覧板などで地域の動向の把握に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の移行でかかりつけ医を決めていただき納得して適切な医療を受けられるよう努めている。	ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回、訪問診療を受けている。歯科医の訪問診療も月1回ある。また、週1回看護師の訪問があり健康管理を行っている。利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診する際には、ホームでの状態や様子を伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。受診記録は業務日誌に記載し情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や毎週の訪問看護の際に状態をお伝えし適切な受診や看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院対応の際はご家族様、医療機関と情報交換を行い早期に退院できるよう対応、その後の施設対応ができるよう努めていた。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院の際は重度化や終末期、看取りについて説明している。主治医、訪看と24時間連携を図り、情報の共有に努めている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明し、同意を得ている。重度化した時は、医師が家族に説明し、利用者や家族が望む終末期ケアについて関係者で話し合い取り組んでいる。看取り後は、全体会議などで職員のグリーフケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時について定期的に話し合いを行い冷静、迅速に対応できるように努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、水害訓練を行い避難経路の周知等職員全体で確認しあっている。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成している。年2回、避難訓練を実施し、内1回は夜間想定で行っているが、地域住民の参加はない。また、水害を想定した訓練も実施している。設備点検は年1回業者が行っており、非常用食料は各ユニット毎に3日分ずつ備蓄している。新型コロナウイルス感染症対策として検温、マスク、うがい、手洗いを徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の意思を尊重し一人ひとりに向き合うよう努めている。	接遇やプライバシー保護の研修を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けやプライバシーに配慮したケアを心掛け取り組んでいる。呼び名は名前に「さん」を付けて呼んでいる。居室に入室の際はノックと声掛けをし、排泄介助はさりげなくトイレや居室に誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者様の表情等を把握しながら声掛け等を行いご希望に答えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の申し送り時、その日のケアの方向性を話しあい一人ひとりがご自身のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容を利用している。衣類等が足りない際はご家族様へ連絡し持参していただくなど対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が行える方とは使用する材料と一緒に決めながら調理を行っている。又片付け等もお手伝いしていただいている。	献立は、利用者の好みや旬の食材を取り入れて職員が作成している。コロナ禍になる前は食材購入を利用者と一緒に行っていたが、現在は宅配を利用している。調理、配膳、食器洗い、食器拭きなどは利用者の持てる力を活かし利用者と一緒に行っている。クリスマスなど、行事食では季節の雰囲気が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェックしながら職員で把握するよう努めている。又、食事状態を工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、口腔衛生士の協力のもと口腔ケアを行い口腔内の清掃が保持できるよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活記録表を用いて排泄間隔を把握している。利用者様一人ひとりの残存機能を把握しトイレでの排泄が行えるよう支援している。	生活記録表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間も利用者一人ひとりの状態に合わせて対応している。便秘対策として乳製品やオリブオイル、繊維質の食材など食事に取り入れて対応している。便秘気味の利用者については、訪問看護師に相談し、かかりつけ医の処方薬を服用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排便の間隔の把握に努めている。又、軽運動を行い食事には食物繊維を摂れるメニューにするなど便秘の予防に努めている。訪看にて浣腸で対応する事もある。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様一人ひとりのご希望にお答えし羞恥心等に配慮しながら入浴を行っていた。浴槽への出入りが難しい場合にはリフト浴にて介助を行っている。	週2回を基本に入浴しているが、利用者の要望があれば毎日でも入浴することができる。リフト浴は職員2人体制で介助している。脱衣所は床暖房を使用し温度差にも配慮している。湯は必要に応じて換え、好みの湯加減で入れるようにしている。シャンプーなどは、その人の好みのものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されている際には声掛けを行い居室で横になっていただくなど安心して気持ちよく眠れるよう支援している。又、季節に応じて布団を変えたりフロアでの音量などにも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に服薬の変更があった際には申し送りやミーティングにて薬の効能等を話し合い共有するよう努めている。症状に変化があった際には早急に主治医、訪看と相談、報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で以前行っていた事の把握に努め食事準備や散歩支援一人ひとりが自身の役割をもち充実した生活ができるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内だけの生活にならないよう散歩支援を積極的に行っている。	コロナ禍のため例年のような外出はできていないが、気分転換も兼ね積極的に散歩に出掛けている。近くの神社に行くなど、ゆっくり散策を楽しんでいる。感染予防を徹底しながら、レンタカーを利用して、車イスの利用者も一緒にドライブに出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品などご自身で購入できる方はスタッフ付き添いにて買物に出かけてご自身で購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などご家族様が希望された際などは利用者様とお話していただいている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾など季節に応じて変更し季節感を感じられるようにしたり利用者様と一緒にプランターで花を栽培するなど生活感を感じれるよう支援している。	明るく広々としたリビングは床暖房が完備され、ゆっくりくつろげるようソファもある。カウンターキッチン、利用者と一緒に作業がしやすい造りになっている。壁には利用者が職員と一緒に作った季節の作品が飾られ、時計やカレンダーも見やすい位置にある。温・湿度管理は職員が1日4回確認し、記録している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性に注意、配慮しながら安心して生活していただけるよう支援している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様、利用者様と話しあい馴染みのある物や使い慣れた物を配置し今までと変わらない生活を送れるよう配慮している。	居室にはエアコン、クローゼット、カーテン、洗面台、ベッドが設置されている。冬場は加湿器も利用している。利用者はテレビやタンス、掛け軸、位牌、家族写真など馴染みのものを持ち込み、居心地よいようにしている。居室担当者は大掃除や衣替えなど、利用者とは談笑しながら一緒に行っている。温・湿度管理は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自分でできる事はご自身で行えるよう声掛けを行い、環境整備等配慮を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400350		
法人名	株式会社 三協宮城		
事業所名	グループホームあつたかいごおりやま ユニット名はぎ棟		
所在地	仙台市太白区郡山5丁目8-24		
自己評価作成日	令和2年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2020年12月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく生活していただけるようなるべくご本人様の要望にお応えし施設内だけの生活にならないよう散歩支援やドライブなど外出支援を積極的に行っています。散歩中の景色の変化や三神峯公園の桜や光のページェントなどへお出かけし季節感を感じていただくことで生活に張りがでるよう努めています。又夏祭りやハロウィンなどの行事の際には利用者様だけでなく職員も一緒に楽しめるよう企画し職員にやりがいをもって業務できるよう配慮している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは太子堂駅から徒歩で約15分、国道4号線から程近い住宅地の一角にあり、鉄筋2階建て2ユニットである。周辺には小学校、児童館、保育園、幼稚園などがあり、子ども達との交流が利用者の楽しみになっている。すぐ近くにある神社には日常的に散歩に出掛け、近隣住民と顔なじみの関係が築けている。例年は、地域の行事に積極的に参加し、ホームの行事には地域住民が参加するなど、地域交流を深めていた。理念は「自分らしく安心できる生活」「明るい笑顔のある生活」「地域と触れ合える生活を支援していきます」を掲げている。理念をケアに反映し実践できるようユニット毎に目標を定めている。また、目標達成に向けて職員一人ひとりも個人目標を立て、顔写真とともに廊下の壁に掲示し取り組んでいる。職員の意見を聞く仕組みを大切にし、毎月の全体会議で職員が講師を務める勉強会や、新任職員へのOJT(職場内教育)を実施し、外部研修への参加を促すなど職員の資質向上に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごおりやま ）「ユニット名 はぎ棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念に沿って業務を行っている。又ミーティングにて共有している。	理念は職員全員の話し合いで作り上げた。理念を基にユニット毎の目標及び職員一人ひとりの個人目標も立て、利用者が笑顔で安心して過ごせるようケアに努めている。ユニット目標は年度初めに、職員の目標は半年毎に見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の児童館や保育園との交流を行い、行事の際は参加して頂けるよう声掛けしている。	町内会に加入し、例年は、地域の行事に参加したり、事業所の夏祭りに近隣住民や児童館の子ども達などが参加し交流を深めていた。コロナ禍で事業所と地域との交流が希薄になりつつあったが、児童館の子ども達が手作りのクリスマス飾りを届けてくれたり、散歩時に近隣住民から声を掛けてもらうなどの繋がりが継続できている。	コロナ禍にあっても、理念の一つの「地域と触れ合える生活」を実践するために、あらたな地域との交流の仕方を職員の話し合いを基に企画することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症カフェを行い地域の方との交流を設けていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は2カ月に一回、書面にて事業所の取り組みを地域包括や地域の方々に周知を行っている。	隔月、町内会長、民生委員、保育園園長、児童館館長、地域包括職員、事業所職員が参加し開催していたが、コロナ禍で6月以降は書面による報告としている。送付する資料にはグラフや写真も取り入れ、分かりやすく工夫し送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括に事業所の取り組みや状況をお伝えしている。	地域包括職員が運営推進会議に参加しており、事業所の実情や課題を共有し、日常的に相談しやすい関係を築いている。市から新型コロナウイルス感染症に関する情報提供や研修案内があり、可能な限り参加している。例年は、認知症カフェを開催していたが現在はできていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を3か月に一回、職員全員で実施し理解と正しいケアを行えるよう取り組んでいる。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催している。身体拘束・虐待についての社内テストや言葉遣いに関するアンケート等を実施し、職員は自分のケアを振り返っている。外出要求が強い利用者には職員が同行しながら、近くを散歩するなどしている。防犯上、玄関の施錠は20時から7時まで、安全のためセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、身体拘束適正化、虐待についての防止策等を話しあっている。	身体拘束適正化委員会で高齢者虐待防止法等について学び、おこりうる事例について話し合い防止に努めている。不適切な言葉遣いやケアについては、都度、管理者や職員間で声を掛けあって取り組んでいる。全体会議では、新聞記事等を参考にして事例検討する機会も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、権利擁護に関する制度の理解と活用できるよう勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新しい入居があった際には契約内容を十分に説明を行い納得していただけるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話等で要望をお聞きしミーティングで周知を行っている。	例年は、夏祭りの後に家族会を開催し、意見や要望を聞く機会にしていたが、現在は、主に電話で聞いている。毎月発行している「あったかいごだより」で、利用者一人ひとりの様子を写真入りで家族に伝えている。家族に会いたいという利用者の要望に応え、窓越しで面会を行い、利用者の安心に繋がるよう努めている。今後はオンラインによる面会も検討中である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、職員の意見を聞きながら運営に反映している。	年2回の面談や毎月の全体会議などで職員から意見を聞いている。管理者は日常的に職員の様子についても把握し、都度声掛けし意見を聞くように取り組んでいる。資格取得や手当などについての意見・要望を法人本部に伝え運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の評価を行い代表者に報告しやりがいをもって働けるような給与水準、職場環境になるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会を設置し一人ひとりに必要な介護知識、技術を身につけてもらえるようアンケートなど使用し把握に努めている。内部研修を積極的に行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修などに参加した際には情報交換等を行っている。	グループホーム協議会に加入している。法人全体で開催する研修会に参加したり、他の事業所との交流も行っている。また、協力医療機関や協力歯科医、訪問看護師と連携し利用者の健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調で十分に情報収集を行い入居前にスタッフ間で話しあい、入居後不安にならないようなケアを行うよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様が不安に思っている事をお聞きしケアの方向性を十分にお伝えするよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを行う上で何か必要かを見極めよりよいサービスが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気になるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様、ご家族様の要望等をお聞きしその後スタッフ間で共有してより良い生活ができるよう方向性を話し合っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の友人など面会希望があった際にはご家族様と相談し面会の場を設けるなど対応している。	コロナ禍で、家族や友人との面会は、玄関先で窓越しで行うなど制限をしている。外出も以前のようにできず、現在は、近所を散歩し近隣の住民に挨拶するなど継続し支援している。2ヶ月毎に、感染予防を徹底し、理・美容の訪問がある。毎年、利用者が楽しみにしている光のページェントはドライブを兼ねて外出計画を立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士で作品作りを行う時間を設けるなど関わり合い、支えあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にご家族様から相談等があった際には必要に応じて支援していけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のご要望をお聞きし、本人の意向に沿えるよう努めている。	職員は、日々のケアの中で交わす利用者との会話や表情などから思いや意向を把握するように努めている。気づいたことは「業務日誌」に記録し情報共有している。ユニット会議で話し合い利用者の希望にそうように努め、家族にも報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にできる限り情報を収集し職員全体で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、入居後に職員全体で情報を共有し心身の状態に合わせてケアできるよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや定期的なカンファレンスにて課題等の情報の共有に努め介護計画に反映している。	毎月のユニット会議でカンファレンスを行い課題を検討している。介護計画は3ヶ月毎に、居室担当者のモニタリングを基に利用者、家族、訪問看護師や医師の意見も反映し見直している。また、体調の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様の状態、言動の変化を細かく記録に情報を共有しながらケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご要望等があった際には柔軟に対応できるよう業務日誌、申し送りなどで情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議や回覧板などで地域の動向の把握に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の移行でかかりつけ医を決めていただき納得して適切な医療を受けられるよう努めている。	ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回、訪問診療を受けている。歯科医の訪問診療も月1回ある。また、週1回看護師の訪問があり健康管理を行っている。利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診する際には、ホームでの状態や様子を伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。受診記録は業務日誌に記載し情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や毎週の訪問看護の際に状態をお伝えし適切な受診や看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院対応の際はご家族様、医療機関と情報交換を行い早期に退院できるよう対応、その後の施設対応ができるよう努めていた。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院の際は重度化や終末期、看取りについて説明している。主治医、訪看と24時間連携を図り、情報の共有に努めている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明し、同意を得ている。重度化した時は、医師が家族に説明し、利用者や家族が望む終末期ケアについて関係者で話し合い取り組んでいる。看取り後は、全体会議などで職員のグリーフケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時について定期的に話し合いを行い冷静、迅速に対応できるよう努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、水害訓練を行い避難経路の周知等職員全体で確認しあっている。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成している。年2回、避難訓練を実施し、内1回は夜間想定で行っているが、地域住民の参加はない。また、水害を想定した訓練も実施している。設備点検は年1回業者が行っており、非常用食料は各ユニット毎に3日分ずつ備蓄している。新型コロナウイルス感染症対策として検温、マスク、うがい、手洗いを徹底している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の意思を尊重し一人ひとりに向き合うよう努めている。	接遇やプライバシー保護の研修を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けやプライバシーに配慮したケアを心掛け取り組んでいる。呼び名は名前に「さん」を付けて呼んでいる。居室に入室の際はノックと声掛けをし、排泄介助はさりげなくトイレや居室に誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者様の表情等を把握しながら声掛け等を行いご希望に答えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の申し送り時、その日のケアの方向性を話しあい一人ひとりがご自身のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容を利用している。衣類等が足りない際はご家族様へ連絡し持参していただくなど対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が行える方とは使用する材料と一緒に決めながら調理を行っている。又片付け等もお手伝いしていただいている。	献立は、利用者の好みや旬の食材を取り入れて職員が作成している。コロナ禍になる前は食材購入を利用者と一緒に行っていたが、現在は宅配を利用している。調理、配膳、食器洗い、食器拭きなどは利用者の持てる力を活かし利用者と一緒に行っている。クリスマスなど、行事食では季節の雰囲気を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェックしながら職員で把握するよう努めている。又、食事状態を工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、口腔衛生士の協力のもと口腔ケアを行い口腔内の清掃が保持できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活記録表を用いて排泄間隔を把握している。利用者様一人ひとりの残存機能を把握しトイレでの排泄が行えるよう支援している。	生活記録表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間も利用者一人ひとりの状態に合わせて対応している。便秘対策として乳製品やオリブオイル、繊維質の食材など食事に取り入れて対応している。便秘気味の利用者については、訪問看護師に相談し、かかりつけ医の処方薬を服用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排便の間隔の把握に努めている。又、軽運動を行い食事には食物繊維を摂れるメニューにするなど便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様一人ひとりのご希望にお答えし羞恥心等に配慮しながら入浴を行っていただいている。	週2回を基本に入浴しているが、利用者の要望があれば毎日でも入浴することができる。リフト浴は職員2人体制で介助している。脱衣所は床暖房を使用し温度差にも配慮している。湯は必要に応じて換え、好みの湯加減で入れるようにしている。シャンプーなどは、その人の好みのものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されている際には声掛けを行い居室で横になっていただくなど安心して気持ちよく眠れるよう支援している。又、季節に応じて布団を変えたりフロアでの音量などにも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に服薬の変更があった際には申し送りやミーティングにて薬の効能等を話し合い共有するよう努めている。症状に変化があった際には早急に主治医、訪看と相談、報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で以前行っていた事の把握に努め食事準備や散歩支援一人ひとりが自身の役割をもち充実した生活ができるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内だけの生活にならないよう散歩支援を積極的に行っている。	コロナ禍のため例年のような外出はできていないが、気分転換も兼ね積極的に散歩に出かけている。近くの神社に行くなど、ゆっくり散策を楽しんでいる。感染予防を徹底しながら、レンタカーを利用して、車イスの利用者も一緒にドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替にて対応させていただいている。必要なものなどをお聞きしご家族様やスタッフが購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などご家族様が希望された際には利用者様とお話していただいている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾など季節に応じて変更し季節感を感じられるようにしたり利用者様と一緒にプランターで花を栽培するなど生活感を感じれるよう支援している。	明るく広々としたリビングは床暖房が完備され、ゆっくりくつろげるようソファもある。カウンターキッチン、利用者と一緒に作業がしやすい造りになっている。壁には利用者が職員と一緒に作った季節の作品が飾られ、時計やカレンダーも見やすい位置にある。温・湿度管理は職員が1日4回確認し、記録している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性に注意、配慮しながら安心して生活していただけるよう支援している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様、利用者様と話しあい馴染みのある物や使い慣れた物を配置し今までと変わらない生活を送れるよう配慮している。	居室にはエアコン、クローゼット、カーテン、洗面台、ベッドが設置されている。冬場は加湿器も利用している。利用者はテレビやタンス、掛け軸、位牌、家族写真など馴染みのものを持ち込み、居心地よくしている。居室担当は大掃除や衣替えなど、利用者とは談笑しながら一緒に行っている。温・湿度管理は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自分でできる事はご自身で行えるよう声掛けを行い、環境整備等配慮を行っている。		